

6・8国鉄集会へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2014年5月29日
No.197

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

沖大学生自治会再建!

5月22日～27日、「沖縄大学学生自治会復活会」は、「沖大生の力で戦争とめよう! 5・19キャンパス集会」の高揚を引き継ぎ、学生自治会再建を問う全学シール投票を行いました。そして、90票(賛成63票、反対25票、無効2票)の得票で、復活会代表・赤嶺知晃君(法経2年)を委員長とする沖縄大学学生自治会の再建を高らかに宣言しました! 夕方に開催した開票式と自治会再建宣言集会は、歴史的な快挙への感動とこれからの闘いの決意を胸に刻む集会としてうち抜かれました。

自治会が目指すものは、「辺野古新基地建設反対の声をあげよう」「ビラまき禁止の学則を撤廃させよう」「4人に1人が辞めざるを得ない大学の現実を変えよう」の3点です。どれも、沖大生から寄せられた切実なメッセージをもとにしています。

投票は、「メッセージは脅して書かされた。沖大生に不満はない」などと、沖大生の決起をつぶそうとする沖大・仲地学長体制との大激突になりました。大学当局は連日10数人の職員を動員し、クラス入りや正門での投票行動を妨害するばかりか、授業内容を変更して「投票するな」「自治会を認めるな」とネガティブキャンペーンをはりました。教授やサークル顧問の立場を使って「反対票」を組織することすらありました。

しかし、復活会の不屈の団結と登場、赤嶺君を先頭とし



賛成票63、反対票25、無効票2の計90票で沖大学生自治会が再建された!

写真は委員長となった赤嶺君

た昼休みの怒りのアジテーションが次第に「重さ」を吹き飛ばし、悩みながら賛成票を投じる学生、「頑張ってください!」と投票する学生など多くの議論と感動的決起が生み出されていきました。最終日には、消耗する職員の監視を前に次々と賛成票が投じられました。これが沖大生の怒りです。再建された沖大自治会は、この沖大生の怒りと団結に依拠し、全国・全世界の仲間と連帯して腐りきった大学を変え、基地と戦争をなくす闘いの先頭に立ちます!

国鉄1047名解雇撤回! 闘う労働運動を甦らせよう

国鉄闘争全国運動 6・8全国集会

◆6月9日(日)13時～

◆東京・文京シビックホール (文京区春日1-16-21)

【主催】国鉄分割・民営化に反対し、1047名の解雇撤回闘争を

支援する全国運動(国鉄闘争全国運動)

<http://www.doro-chiba.org/z-undou/z-index.htm> nationwidemovement@yahoo.co.jp

※右写真は、1800人が結集した昨年6月9日の国鉄大集会(文京シビックホール)



5・19 沖大集会と自治会選挙の感想

●福島大・H

5月19日に行われた沖大全国集会、その後始まった沖大自治会選挙は、沖大当局の反動を粉碎して大成功を勝ち取りました。集会当日、当局は出入り口で学生証をチェックし、学外者の排除を行いました。それでも自治会復活会のメンバーが正門に登場し集会を始めると、今度は教授たちが率先して帰れコールをし、学生にも唱和させるという手段に出ました。後で分かったのですがこの日の帰れコールは、教授が事前に自分のゼミやサークルの学生に呼びかけて行わせていたものだったとのことです。しかし復活会はこれに屈することなく集会を貫徹、沖大生の大きな注目を集めました。

その後開始された自治会選挙でも当局は妨害をやめません。教室に入っただけで投票を行おうとすれば排除し、門前で投票を呼びかければ何人もの職員が監視に出てきました。それでも私たちの訴えに応え、多くの学生が投票し、監視に出てくる職員の数も次第に減っていきました。そして投票総数90票、賛成63票を獲得し見事自治会を再建させました。

今回の集会そして選挙により沖大当局の腐敗した姿と沖大生の怒りが明らかになりました。集会つぶしのために学生を組織し帰れコールをさせたばかりか、授業時間を利用して「投票をするな」「復活会と関わるな」という宣伝を行った当局には怒りを感じずにいられません。だからこそ、沖大自治会再建は沖大そして全国の大学を変える大きな一歩になったと思います。私はこの集会・選挙に福島から駆けつけました。沖大自治会再建の地平を受け継ぎ、全国大学そして福島大に自治会を建設する運動を進めていきたいと思いました。

●福島大・F

沖縄大学学生自治会再建、おめでとうございます！ 沖大に革命が起きましたね！

学生自治会復活会代表改め沖縄大学学生自治会委員長の赤嶺くんは、今年と去年の3・11反原発福島行動に現地行動隊として集会前から福島入りしてくれた仲間です。「受けた恩を闘いで返す」という気持ちもあって、5月19日の沖大集会以降、学生自治会再建のために沖縄現地に残りました。沖大・全国の仲間とともに、沖縄の暑い日ざしの下で汗びっしょりになりながら、あるいは梅雨どきでときにはびしょぬれになりながらも、それでも門前に立ち続け、ビラの検討をし、寝食もともにし、語り合い、勝利をかちとれたことはとてもうれしいです。



沖大門前でアピールする福島大生

門前で投票を呼びかけっていると、そこに何人もの職員が監視しに来ます。沖大生がクラスで呼びかければ、廊下で職員が学生を威圧している。クラス討論には「授業妨害だ」と叫ぶ教授が、授業で復活会の悪宣伝をしていたことには、本当に腹が立ちました。ほかにもさまざまな重圧がありましたが、赤嶺くん先頭に学生自治会復活会の仲間が自信をもって学生自治会再建の3大スローガンを訴え、クラスと門前からひかずに一人ひとりに声をかけて討論をつくっていったこと、団結を崩さなかったこと、これが最大の勝因だと思います。4人に1人が沖大を去らざるを得ない沖大の現実を変えよう！と全学生の利害を体現した姿だけでもカッコいいのに、辺野古新基地建設反対！と沖縄の現実をも変えていく視点を持って訴える姿は本当に感動しました。

学生の決起を信じきって訴えたとき、沖大生は応えてくれました。特に、投票最終日の5月27日は圧巻でした。学生の戦争反対の集会や投票行動を弾圧する沖大当局は安倍と一緒にだと怒り、学生の投票が沖大当局と安倍をグラグラにしていくなで、との渾身のアジテーション。職員を目を気にしてか投票できなかった学生たちが、何人も次々と「学生自治会再建に賛成」に投票していきました。それを見た職員はさらに意気消沈。あれは気持ちよかったです。

学外者キャンペーン、過激派キャンペーンがいかに許しがたいか。「絶対反対」で闘うことは、体制との闘いになります。安倍との対決ができない「リベラル」勢力は、法大や沖大、福大のように、最先頭で闘う人たちへの弾圧に手を染めます。その分断攻撃に悔し涙を飲む日々もありますが、自分自身と学生の怒りを信じて行動すれば、必ず学生は合流してきます。そういう情勢がますます来ていると、今回の沖縄闘争で実感しました。福大生との団結を拡大しながら、福大にも闘う学生自治会をつくりたいと改めて決意しました。

【当面する行動方針】

●6・13法大処分撤回第6回裁判

6月13日(金) 16時～ 東京地裁・615号法廷にて ※傍聴券配布のため30分前までに裁判所脇に集まって下さい